



謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

皆様、どんなお正月でしたか。子ども達は、年末から新年にかけて、楽しみにしていた行事が続き、おしゃべりに花が咲いていました。

さて、今年の干支は、丙午（ひのえうま）ですね。「勢いとエネルギーに満ちて活動的」になる年と伝えられています。昨年は日本初の女性首相が誕生したり、ノーベル賞の2分野で日本人が受賞したりと、元気をもらいました。今年はどんな分野での活躍があるでしょうか？2026年は2月に冬季オリンピック、3月はWBCも開催され、大人も子どもも楽しみが目の前にあり、がんばるエネルギーをもらえそうですね。

さんこう児童クラブも5年目を迎えます。職員が一体となって、充実した時間が過ごせる居場所づくりに努めていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

1月の目標

「気持ちの良い挨拶をしましょう」

新年の挨拶、日頃の挨拶、お礼の言葉等を自分から言えるように頑張りたいです★

【お願い】

小学校でクラス及び学年閉鎖があった際は、必ずお休みの期間をご連絡ください。

✿言葉の重み②～児童と話をして～✿

聞いて嫌になるような言葉を言わないように気を付ける児童の姿が見られるようになってきました！意識していることが分かった時には、その姿を認める言葉を掛け、やってよかった、これからもそうしようと思うことができるようになります。今後もみんなで頑張ります！

【手洗いうがいが習慣になってきています】

先月より、意識を高めて徹底して行うよう促している手洗いうがいですが、学校や戸外遊びから帰ると自ら行う子が増えました！さらに、友達同士で呼びかけたり、したかどうかを確かめる声かけも聞かれるようになり、主体性が見られていることを嬉しく思います☆

その中で、驚きの出来事が！！

児童のうがいの様子を見ると、「ぐじゅぐじゅぱっ！」をしている子が数名。「それは喉のばい菌はいなくならないね！」と言うと、「なんで？」と本気で不思議そうにする児童もいました。これまで声掛けはしていましたが、徹底とまではできていなかったことを反省しました♪同じ「うがい」でも異なることがわかると、その後は、「がらがらぱっ」とするように☆

今後も、習慣化を目指していきたいです(^^)

★自然遊びでも季節感を★

先月、12月半ば、友達と一緒に自然物を使って「クリスマスの山」を作っていました(^^)クリスマスの山という発想がかわいらしく、微笑ましく思ったと同時に、自分たちで季節を取り入れていたことに驚きました♡



←友達と一緒に完成させられたことが嬉しそうでした(*^-^*)赤線は木の枝です！その中に自然物の飾り(オーナメント風)がちりばめてあり、オシャレな山でした♪

★日々上達中！縄跳び★

飛ぶときに色々なポーズをしながら跳んでいます！みんなで八の字跳びが盛り上がっているところです♪



1月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	1月末退所者数
1年生	13	0	13	0	0
2年生	3	0	3	0	0
3年生	13	0	13	0	0
計	29	0	29	0	0

子どもの「生活」が学びを育てる

西九州大学子ども学科 助教 加藤優汰

子どもは、毎日の生活の中でたくさんのこと学んでいます。砂場で山をつくる、靴をそろえる、食器を運ぶお手伝いをする——どれも大人にとっては当たり前のように見えるかもしれません、その背後には、「どうしたらうまくできるかな」「もう1回やってみよう」といった子どもの試行錯誤や思い、創意工夫が詰まっています。こうした生活の一つひとつが、子どもの成長につながる大切な学びの瞬間です。

実は、こうした“子どもの生活そのものを大切にする”という考え方は、近年になって登場したものではありません。19世紀に世界で初めて幼稚園を創設したフリードリヒ・フレーベル(1782-1852)は、幼児の生活そのものをていねいに観察し、その生活の中で子どもが世界に働きかけ、自分を表現していく過程こそが発達の中心であると論じました。幼児の生活を成長や発達の基礎としてとらえようとする姿勢がうかがえます。

また、20世紀アメリカの教育学者ジョン・デューイ(1859-1952)は、子どもの学びは実際の生活とつながっていることが大切だと強調しました。子どもが生活の中で実際にやってみたり、工夫したり、失敗したりしながら気づいていくことが深い学びにつながる。つまり、生活そのものが子どもを成長させる学びの場であると、デューイは考えました。

日本でも、わが国の幼児教育の礎を築いた倉橋惣三(1882-1955)が、「生活を、生活で、生活へ」という有名な言葉を残しています。これは、幼児期の教育とは将来に向けた準備ではなく、子どもたちが日々の生活を送りながら自ら学び、生活そのものを創りあげていくことであるという考えを端的に表したものです。日々の生活場面ににじみ出てくる子どもの思いや願いを受けとめ、それを伸ばしていくことが幼児教育の核である、というのが倉橋の立場でした。

こうした幼児教育の歴史を辿っていくと、“子どもの生活そのものを大切にする”という思想が、国や時代を超えて、子育ての基本とされてきたことが浮かび上がってきます。現代の保護者の中には、SNSや広告から流れてくる「絶対にマネすべき子育て法」や「絶対に買うべき教材」といった情報に追われ、常に新しいものを取り入れなければと、日々奔走し、不安になっている方もいるかもしれません。しかし、世界の幼児教育の源流に立ち返ってみれば、特別な教材や特別な方法がなくても、子どもは生活の中で豊かに学んでいくものだという基本的な考え方を改めて確認することができます。

毎日の遊び、食事、着替え、お手伝い、お片づけ、家族やお友達との何気ない会話——こうした子どもたちの日常一つひとつが、子どもにとって大きな学びの場となっているのです。どうぞ、ご家庭でも、子どもが生活の中でふと見せる小さな挑戦や発見に目を向け、その成長と一緒に楽しんでいただければと思います。